

科目名：小児歯科学		必	1 単位 (45 時間)
(Pediatric Dentistry) 履修年次/時期：2 年次 前期 授業形態：講義 主担当教員：木本茂成（実務経験：歯科医師 41 年、附属病院小児歯科診療科長・歯学部小児歯科学科目担当 19 年 臨床における小児歯科診療の実務経験を生かし、小児の成長発達の過程を理解するとともに、小児における歯科治療 の特殊性について解説します。また、患児・保護者との良好な信頼関係を構築するための対応法を教授します。） 担当教員：			
学修目的	小児期に疾病や創傷によって正常な発育を妨げられると、永続的な欠陥や機能障害が起こるだけでなく、後の成長発 達過程にも影響を及ぼすことになる。小児歯科学の目的は、発育途上にある顎口腔系器官の正常な発育を見守り、これ を障害する口腔疾患や異常の早期発見に努め、その治療と予防を行うことである。すなわち、小児期からの口腔機能の 育成によって、健全な形態と機能を有する永久歯列および顎口腔系器官を完成させ、小児の健康に寄与することを目的 としている。CP(2)(4)に関連する。 科目 No. S2C09H08		
この科目 が目的と している DP	1. 医療専門職としての 倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	
	2. 医療専門職として健 康問題の発見と課題に取 り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 口腔の健康支援を通 し、全身の健康を守る高 度な専門的能力を有す る。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	
		(2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP		
	○： この講義・演習・実習と関連がある DP		
到達目標	① 小児の全身的な成長発達について説明できる。 ② 小児の顎口腔領域の形態的、機能的発達について説明できる。 ③ 小児の成長発達に影響する疾患や異常について説明できる。 ④ 小児の健全な顎口腔形態と機能育成のために必要な疾患の予防と治療の概要について説明できる。 ⑤ 小児の健やかな育ちとその環境について配慮した歯科的対応ができる。		
授業概要	成長発達変化の著しい小児に対して、歯科衛生士としてその職務を遂行する上で、理解していなければならない必要事 項と臨床の場で十分対応できる能力の基礎を教授する。さらに公衆衛生活動などにおいて、他の医療関係者と共同参画 できる知識の習得を目的とする。		
評価方法	筆記試験（100 点満点、筆記 50 点、多肢選択問題 50 点）（100%）、その他、レポート課題を課する場合もあ る。（加点）、最終成績は総合評価。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・ 復習時間	【予習】0.5 時間 【復習】0.5 時間		
教科書	歯科衛生士講座 小児歯科学 第 2 版 新谷誠康編集主幹 永末書店（A） 歯科国試パーフェクトマスター 小児歯科学 第 5 版 河上智美編著 医歯薬出版（B）		

参考書	最新歯科衛生士教本 小児歯科学第2版 大島 隆監修 医歯薬出版 小児歯科学ベーシックテキスト、クリニカルテキスト第3版 新谷誠康他編 永末書店 小児歯科学 第6版 白川哲夫他編 医歯薬出版
オフィス- 連絡先	木 12:00~13:00、4号館2階 非常勤講師室 s.kimoto@kdu.ac.jp ※不在時はメールでお願いします。

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (4/10) 講義	小児歯科学の意義と目的 心身の発育、小児の成長発達 ①小児歯科学の意義について説明できる。 ②小児の成長発達の特徴について説明できる。 ③身体発育の評価について説明できる。 ④生理的年齢について説明できる。 ⑤器官(各臓器)の発育について説明できる。	教科書(A)p.1～8、教科書(B)p.1～2 を読んでおくこと。 [キーワード] 小児歯科学の意義と目的、成長発達、身体発育、カウプ指数、ローレル指数、生理的年齢、器官の発育	講義 ○木本
2 (4/17) 講義	小児の機能の発達、生理的特徴 ①小児の運動機能、言語機能発達について説明できる。 ③口腔機能(摂食嚥下)の発達について説明できる。 ④情動、社会性の発達について説明できる。 ⑤小児の生理的特徴を説明できる。	教科書(A)p.8～18、教科書(B)p.6～14 を読んでおくこと [キーワード] 原始反射、運動機能の発達、言語機能の発達、摂食嚥下の発達、離乳、乳児型嚥下、情動・社会性の発達、小児の生理的特徴	講義 ○木本
3 (4/24) 講義	頭蓋と顎の成長発育、発育評価、分析法 ①小児の頭蓋および顎の成長発育について説明できる。 ②顔面頭蓋および顎の成長発育の評価について説明できる。	教科書(A)p.19～25、教科書(B)p.3～5 を読んでおくこと [キーワード] 脳頭蓋および顔面頭蓋の成長発育、成長発育の評価、分析法	講義 ○木本
4 (5/8) 講義	歯の発育と異常 ①乳歯と幼若永久歯の特徴について説明できる。 ②歯の正常な発育と発育時期について説明できる。 ②歯の形成異常について説明できる。	教科書(A)p.26～38、教科書(B)p.38～41、15～23 を読んでおくこと [キーワード] 乳歯・幼若永久歯の特徴、歯の発育、歯の発育障害	講義 ○木本
5 (5/15) 講義	歯の萌出と萌出異常 ①歯の正常萌出時期を説明できる。 ②歯の萌出障害を説明できる。	教科書(A)p.38～42、教科書(B)p.15～16、24～26 を読んでおくこと [キーワード] 歯の萌出時期、歯の萌出障害	講義 ○木本
6 (5/22) 講義	歯列および咬合の発育と異常 ①歯列と咬合の発育について説明できる。 ②歯列と咬合の発育異常について説明できる。	教科書(A)p.43～50、教科書(B)p.27～37 を読んでおくこと [キーワード] 歯列・咬合の発育段階、Hellmanの歯齢、顎間空隙、霊長空隙、発育空隙、アグリーダックリングステージ、リーウェイスペース	講義 ○木本
7 (5/27) 講義	小児の齲蝕・歯周疾患 ①乳歯齲蝕について説明できる。 ②齲蝕罹患型分類について説明できる。 ③幼若永久歯齲蝕について説明できる。 ④小児の歯周組織の特徴について説明できる。 ⑤小児の歯周疾患の特徴について説明できる。	教科書(A)p.74～85、教科書(B)p.42～48、57～63、 を読んでおくこと [キーワード] 小児の齲蝕、齲蝕罹患型分類、小児の歯周疾患、歯肉退縮	講義 ○木本

8 (6/5) 講義	齲蝕の予防処置と進行抑制、定期健診（リコール） ①小児齲蝕に予防法について説明できる。 ②齲蝕の進行抑制処置について説明できる。 ③定期健診（リコール）の意義について説明できる。	教科書(A)p.51～61、194～227、教科書(B)p.49～56 を読んでおくこと 〔キーワード〕 小児齲蝕の予防法、定期健診の意義、齲蝕の進行抑制処置、	講義 ○木本
9 (6/12) 講義	小児患者への歯科的対応法 小児歯科診療における補助1 診察・検査 ①小児患者への歯科的対応法について説明できる。 ②小児患者に対する診察の進め方について説明できる。	教科書 (A)p.62～73、107～121、教科書(B)p.141～149 を読んでおくこと。 〔キーワード〕 小児患者への歯科的対応法、TDS法、モデリング法、オペラント条件付け法、医療面接、頭部・顔面の診察、口腔の診察	講義 ○木本
10 (6/19) 講義	小児歯科診療における補助2 歯冠修復、歯内療法 ①小児患者に対する歯冠修復概要について説明できる。 ②小児患者に対する歯内療法概要について説明できる。	教科書 (A)p.129～163、教科書(B)p.64～81 を読んでおくこと。 〔キーワード〕 小児の歯冠修復、乳歯用既製金属冠による修復、光コンポジットレジン冠修復、小児の歯内療法、アペキシゲネーシス、アペキシフィケーション	講義 ○木本
11 (6/26) 講義	小児歯科診療における補助3 小児の外科的処置・外傷処置 ①小児歯科における局所麻酔法について説明できる。 ②小児患者に対する外科的処置概要について説明できる。 ③小児の薬物療法の要点について説明できる。 ④小児患者に対する外傷処置概要について説明できる。	教科書 (A)p.164～184、教科書(B)p.82～94 を読んでおくこと。 〔キーワード〕 小児患者への外科的処置、乳歯抜歯、抜歯時の注意点、小児薬物療法、小児の歯の外傷、外傷の受傷頻度、外傷への対応	講義 ○木本
12 (7/3) 講義	小児歯科診療における補助4 咬合誘導 ①小児患者に対する咬合誘導の概要について説明できる。 ②口腔機能発達不全症について説明できる。	教科書 (A)p.185～193、93～96、教科書 (B)p.107～121 を読んでおくこと。 〔キーワード〕 咬合誘導、保隙、可撤保隙装置、クラウンループ、ディスタルシュー、リンガルアーチ、ナンスのホールディングアーチ、動的咬合誘導、口腔機能発達不全症	講義 ○木本
13 (7/10) 講義	口腔に関連の深い小児疾患1 軟組織疾患、感染症 ①小児に多い口腔軟組織疾患について説明できる。 ②口腔症状を示す小児感染症について説明できる。	教科書(A)p.85～90、教科書(B)p.95～106、131～133 を読んでおくこと。 〔キーワード〕 リガ・フェーデ病、小帯の異常、上皮真珠、地図状舌、粘液嚢胞、ペドナーアフタ、手足口病、ヘルパンギーナ、麻疹、水痘、風疹、流	講義 ○木本

		行性耳下腺炎、ヘルペス性歯肉口内炎、口腔カンジダ症、猩紅熱	
14 (7/17) 講義	口腔に関連の深い小児疾患2 先天異常、唇顎口蓋裂 ①唇顎口蓋裂など先天異常の概要について説明できる。 ②口腔症状を示す先天疾患（遺伝性疾患・染色体異常等）について説明できる。 ③歯科治療時に留意すべき小児疾患について説明できる。	教科書 (A)p.90～92、教科書 (B)p.122～130、を読んでおくこと 〔キーワード〕唇顎口蓋裂、外胚葉異形成症、鎖骨頭蓋異形成症、骨形成不全症、先天性表皮水疱症、Down（ダウン）症候群、先天性心疾患	講義 ○木本
15 (7/24) 講義	まとめ	これまでに配布したプリント、確認テスト問題などすべての資料、教科書を持参すること	講義 ○木本